



2018 年度 募集要項 インド ニッテ大学派遣プログラム



[募集対象] 理工学部1～3回生、生命科学部1～3回生
[応募期間] 2018年3月30日(金)～4月16日(月)17時
[選考結果発表] 5月15日(火)17時に manaba+R で通知

1.プログラムの概要・目的

本プログラムは、インドの科学技術や文化等の理解を深めながら、インドが抱えている様々な課題について調査を行い、課題に対して理工系の知識を活かしながら、様々な視点で解決策を探ります。また、解決策の効果や実現性等についてディスカッションを行い、検討を重ねることで、科学技術の理解を深めます。

現地研修では「ニッテ大学 NMAMIT」に訪問し、現地の学生とのディスカッションや研究室訪問、フィールドワークなどを通じて解決策の検証を行い、最終プレゼンテーションを行います。

本プログラムの主な目的は以下の3点です。

インドにおける課題へのアプローチと解決策の検討

インドにおける課題に対して、現地でのヒアリングや企業訪問等を通して、その解決策を検討する。現場の技術者から話を聞くことで、日印の科学技術を比較し、それぞれの科学技術の可能性や課題等に関して理解を深める。

英語でのコミュニケーション能力の向上

グループワークやフィールドワーク等を通じて、コミュニケーションの手段として英語を用い、意思の疎通をはかることで、英語でのコミュニケーション能力の向上を図る。

異文化理解

派遣先大学において、多様な背景の学生たちと共同で生活し、学び、意見を交わし、発表することを通して、文化・習慣等の違いや共通点を見出し、相互理解の重要性を学ぶ。

2.プログラムのスケジュール

本プログラムは以下3つのセクションに分かれています。

A：事前講義・現地研修に向けた準備、B：現地研修（移動日含め10日間）、C：振り返りとまとめ

本プログラムの担当は、廣瀬幸弘教授です。

	日程	時限(理系)	内容
	6月13日～21日		ニッテ大学 NMAMIT の学生との交流 1
A	10月10日(水)	9-10 時限	イントロダクション
	11月14日(水)		授業の進め方、課題解決の手法に関する講義
	11月28日(水)		インドにおける課題について、調査報告とディスカッション
	12月5日(水)		インドの現状の理解（IITH 学生との懇談）
	1月9日(水)		解決策（方向性）のプレゼンテーションとディスカッション
	1月31日(木)	11-12 時限	渡航前ガイダンス
B	2月上旬 (10日間程度) 2	-	[派遣先大学] ニッテ大学 NMAIT (Nitte Mahalinga Adyanthaya Memorial Institute of Technology) [現地研修内容] ・ A brief on Nitte University ・ Lab tour ・ Workshop with Nitte students ・ Visit to laboratory ・ Visit to industry ・ Outing with Nitte students ・ Final presentations
C	2月中旬	別途調整 1	現地研修を受けたまとめ、発表

1 来校するニッテ大学の学生の滞在中の学内生活を支援します（プログラム外の企画です）

2 現地研修の日程は変更になる可能性があります。また、追試験日と重なる可能性があります。本プログラムに参加して追試験を欠席したとしても、配慮はされません。

3．プログラムで目指す到達目標

- ・インドにおける課題に対し、グループで協力して解決策を検討し、まとめることができる。
- ・インド人学生と、英語でコミュニケーションをとり、プレゼンテーションにおいて、英語で分かりやすく提案を説明することができる。
- ・インドの多様な文化、社会的状況、科学技術等に関して理解を深め、それらについて説明することができる。

4．募集定員

15 名程度

5．応募資格

- (a) 理工学部 of 1 ~ 3 年生、生命科学部 of 1 ~ 3 年生であること。国籍は問いません。
- (b) TOEIC® LISTENING&READING テスト 400 点以上、TOEFL®BT テスト 435 点以上、TOEFLiBT® テスト 41 点以上のいずれかの要件を満たすこと。
- (c) 将来、国際的なフィールドで活躍したいという強い動機、意欲を有すること。

6．費用

- (1) 大学負担費用
 - a) 渡航費 (「日本 - インド」往復渡航費から参加費(5 万円)を差し引いた残りの渡航費は大学負担)
 - b) 現地での宿泊費 (ニッテ大学 NMAMIT の寮に宿泊します。)
- (2) 参加者負担費用 (約 8 万円)
 - a) 参加費 (渡航費の一部。5 万円)
 - b) ビザ取得費
 - c) 海外旅行保険料 (海外旅行保険料には必ず加入いただきます)
 - d) インド渡航時の国内交通費 (自宅 - 関西空港間など)
 - e) インドでの食費・移動費

下記「11．奨学金」の受給者は 6 万円支給されるため、参加費用は実質 2 万円程度になります。

7．単位授与

本プログラムを終了した学生に授与される単位は以下のとおりです。後期セメスターに授与します。

学部/研究科	科目名	科目分野	単位数
理工学部	特殊講義 (基礎専門)	基礎専門	2 単位
生命科学部	特殊講義 (専門基礎)	専門基礎	2 単位

8．応募方法

- (1) 応募期間など
 - ・ 応募期間: 3 月 30 日 (金) ~ 4 月 16 日 (月) 17 時まで
 - ・ 提出方法: 窓口持参またはメール送信
 - ・ 提出先: 理工学部事務室
 - メールアドレス: reinvent@st.ritsumei.ac.jp

(2) 提出書類 (エントリーシート)

募集ガイダンス(4月9日、4月11日、4月12日)で配布される書式、または下記ホームページの添付ファイルをお使いください。

【立命館大学 世界展開力強化事業ホームページ】

「トップページ」→「NEW/アップデート」から「2018年度ニッテ大学派遣プログラムの募集を開始しました」を参照してください。

[URL] <http://www.ritsumei.ac.jp/reinventindia/>

(3) 選考方法

書類審査および面接を行います。面接が必要な方には別途連絡します。

9. 選考結果発表

5月15日(火)17時に manaba+R で通知します。

10. 受講登録

受講登録は事務室で行います(自身での登録は不要です)。年間受講登録制限外科目です。

11. 奨学金

JASSO(日本学生支援機構)の指定する所定の要件(成績基準と家計基準)を満たした学生には、奨学金(6万円)を支給します。JASSO 奨学金の支給要件は以下のとおりです。

【JASSO 奨学金支給要件】

以下の計算式で求められる2017年度の成績評価係数が2.30以上であること。

[成績評価係数の算出方法例]

下記の表により「成績評価ポイント」に換算し、計算式に当てはめて算出(小数点第3位を四捨五入)

	成績評価				
	—	優	良	可	不可
4段階評価(パターン1)	—	A	B	C	F
4段階評価(パターン2)	—	100～80点	79～70点	69～60点	59点以下
4段階評価(パターン3)	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下
5段階評価(パターン4)	S	A	B	C	F
5段階評価(パターン5)	A	B	C	D	F
5段階評価(パターン6)	A	B	C	D	F
成績評価ポイント	3	3	2	1	0

(計算式)

$$\frac{(\text{評価ポイント3の単位数} \times 3) + (\text{評価ポイント2の単位数} \times 2) + (\text{評価ポイント1の単位数} \times 1) + (\text{評価ポイント0の単位数} \times 0)}{\text{総登録単位数}}$$

以下の家計基準を満たしていること。ただし、以下の基準を満たさない場合でも、個別の事情(兄弟が私立大学に在学している等)があれば基準を満たしたものと扱われる場合があるので、理工学部事務室に相談してください。

[学部生] ・給与所得世帯：955万円未満 ・給与所得以外の世帯：469万円未満

12．みらい塾 NEXT（学部 1 回生のみ対象）

「みらい塾 NEXT」は、情報理工学部・理工学部・生命科学部・スポーツ健康科学部の 1 回生を対象にしたグローバルイニシエーションプログラムです。

「みらい塾 NEXT」では、グローバルに活躍する方の講演会、海外留学経験のある先輩や外国人留学生との交流等の企画を開催します。

これらの企画へ積極的に参加する 1 回生には「みらい塾 NEXT ポイント」を進呈し、条件を満たせば参加する海外留学プログラム参加費用の一部を補助（4 万円）します。詳細は 5 月に別途提示します。

13．英語プレゼンテーション講座

このプログラム受講者を主な対象者にした全 4 回の英語プレゼンテーション講座を開講します。この講座では、英語での発信力強化や、英語での効果的なパワーポイントのスライドの作成法などを学びます。

（1）日程

12 月～1 月で全 4 回を予定しています。詳細は別途連絡します。

（2）内容

英語でのプレゼンテーション力強化をめざす講座です。

（3）受講料

無料（ただし、講座のテキストは自己負担）

以上

ニッテ大学 NMAMIT について

インド国内のトップレベルの総合大学！

ニッテ大学 NMAMIT は、インド国内でもトップレベルの大学で、電子通信工学、コンピューター科学工学、土木工学、電気電子工学、情報科学工学、機械工学など多くのコースがあり、学生数 14,000 名ほどの総合大学で、インド南部のカルナータカ地域にあります。



理工学部と様々な学生交流プログラムを実施

2016 年度は、本プログラムに 13 名の理工学部生が参加し、4,5 名のチームをつくり、全 3 チームがインドにおける課題へのアプローチと解決策の検討を行いました。テーマは「交通問題」または「電力供給」です。2 月のインド現地で調査を進め、現地でのヒアリングや企業訪問等を通して、その解決策を検討しました。また、12 月にニッテ大学の学生が本学に来校したときには、学生サポーターとして、活躍し、京都フィールドワークなど様々な企画でコミュニケーションをとり、交流を深めました。



2017 年度は、理工学部・生命科学部の学生 17 名が本プログラムに参加しました。2 月のインド現地研修に向けて「水供給と排水」「ヘルスケア」「電力供給」「廃棄物管理」の 4 つのテーマについてチームをつくり調査を進めました。6 月には、10 名のニッテ大学の学生が来校し、本プログラム参加学生が考えた交流企画で親睦を深め、滞在中の生活面の学生サポートなどを通して交流しました。



2017 年度の参加学生の声

理工学部 環境システム工学科 2 回生

このプログラムはインドに対する固定概念を崩すいい機会だった。インドは発展途上国であり、工学分野において著しい成長を遂げているため一度肌で体験するべきだと言われたことがあった。そこで、このプログラムに参加する意思を固めた私であったが、実際に体験したインドの発展ぶりは想像とは違っていた。日本で作成していたインドの水問題に関する解決策プレゼンも、ネットの情報をうのみにしていたので作り直しを余儀なくされた。データ自体が古すぎたり、デリーなど都市部の情報しか公開されていなかったりと気付かないところでミス犯していた。そのミスを発見できたのは、現地での教授陣の解説・施設訪問・学生のフォローによるものだ。ニッテ大学の方々は、つたない英語で行う質疑応答に何度も受け答えをすることで、私たち立命館大学生の理解を促してくれた。

プログラムの参加に迷っている方は、英語力・専門知識・海外への渡航経歴など心配する必要はないと思う。事前講義などで十分に補えるものであるため、好奇心を優先してほしい。



理工学部 ロボティクス学科 2 回生

今回の留学プログラムに参加して本当によかったと思う。このプログラムで二つのことが印象に残った。まず一つ目は、インド人の優しさだ。交流前は、英語でコミュニケーションをとることができるのか不安に感じていたが、インドの学生は私たちの拙い英語に呆れることなく、一生懸命理解しようとしてくれるような優しい学生ばかりだった。インドのなまりは少し強かったが、その分、聞き取れるようになってきたときはとても嬉しかった。二つ目は、現地でのプレゼンだ。他学部先輩や後輩、同期たちと一緒にプレゼンを作り上げることはそうそうない経験で、多くのことを学んだ。準備期間も短く、何度も修正したり大変なこともあったが、つらかった分、一生ものの仲間ができた。教授やTAさんもいい人たちで、一緒に貴重な経験をさせてもらったことは本当に恵まれていたと思う。衛生面も全く問題なかったので、是非積極的に参加してもらいたい。



生命科学部 生物工学科 2 回生

このプログラムは、他の語学留学とは違った貴重な体験ができる機会でした。インドという国は一生に一度行くか行かないか、そんな国での10日間は毎日が発見の連続でした。食べ物から生活環境、移動中の車の中でさえ驚くことばかりでした。毎日ミネラルウォーターで歯磨きをするなど、日本にいたら絶対にできないような経験ができます。また、渡航前に抱いていたインドのイメージやネットで集めた情報は大きく異なることがわかりました。情報社会である今でも、自分の目で見て判断することが重要だと実感しました。たった10日間ですが、何かを得ることができると思います。是非皆さんの目で確かめてみてください。



理工学部 電気電子工学科 3 回生

自分は英語にかなりの苦手意識があり、特に英語を話すということに対して大きな抵抗がありました。このことから、何とか克服する機会はないかと考え、留学に興味を持つようになりました。しかし、自分はそれまで海外渡航経験がなかったため、いきなり数ヶ月も海外に滞在することには抵抗がありました。そんな中で目に付いたのが、このニッテ大学派遣プログラムでした。滞在期間も短く、比較的费用もかからないことから申し込むことに決めました。

実際にインドの人たちと交流してみると、彼らは非常に友好的であり、積極的に私たちに話しかけてくれました。自分も、完璧とは言えない拙い英語でしたが彼らとコミュニケーションをとることができました。このとき同時に、自分の思いをもっとうまく英語で表現したいという思いが湧いてきました。また現地でのプレゼンテーションでは、自分が思っていたよう上手く発表することができず悔しい思いをしました。しかし、こういったもどかしい経験が自分の英語学習のモチベーションを高めてくれました。このプログラムに参加していなかったらこうは思わなかったのだらうなと思います。



参加を悩んでいる皆さん、皆さんにとって貴重な経験になることは間違いありません。迷っているのなら思い切って応募してみましょう。不安もあるかもしれませんが、今しかできない経験です。「若いうちに恥をかけ」です。失敗を恐れず今のうちに挑戦してみましょう。